

市民委員会資料

議案第 1 1 2 号

川崎競輪場メインスタンド耐震補強その他工事請負契約の
変更について

資料 1 川崎競輪場再整備について

資料 2 川崎競輪場メインスタンド耐震補強その他工事の設計変更
について

経済労働局

平成 2 7 年 6 月 1 0 日

1 競輪場再整備の方針

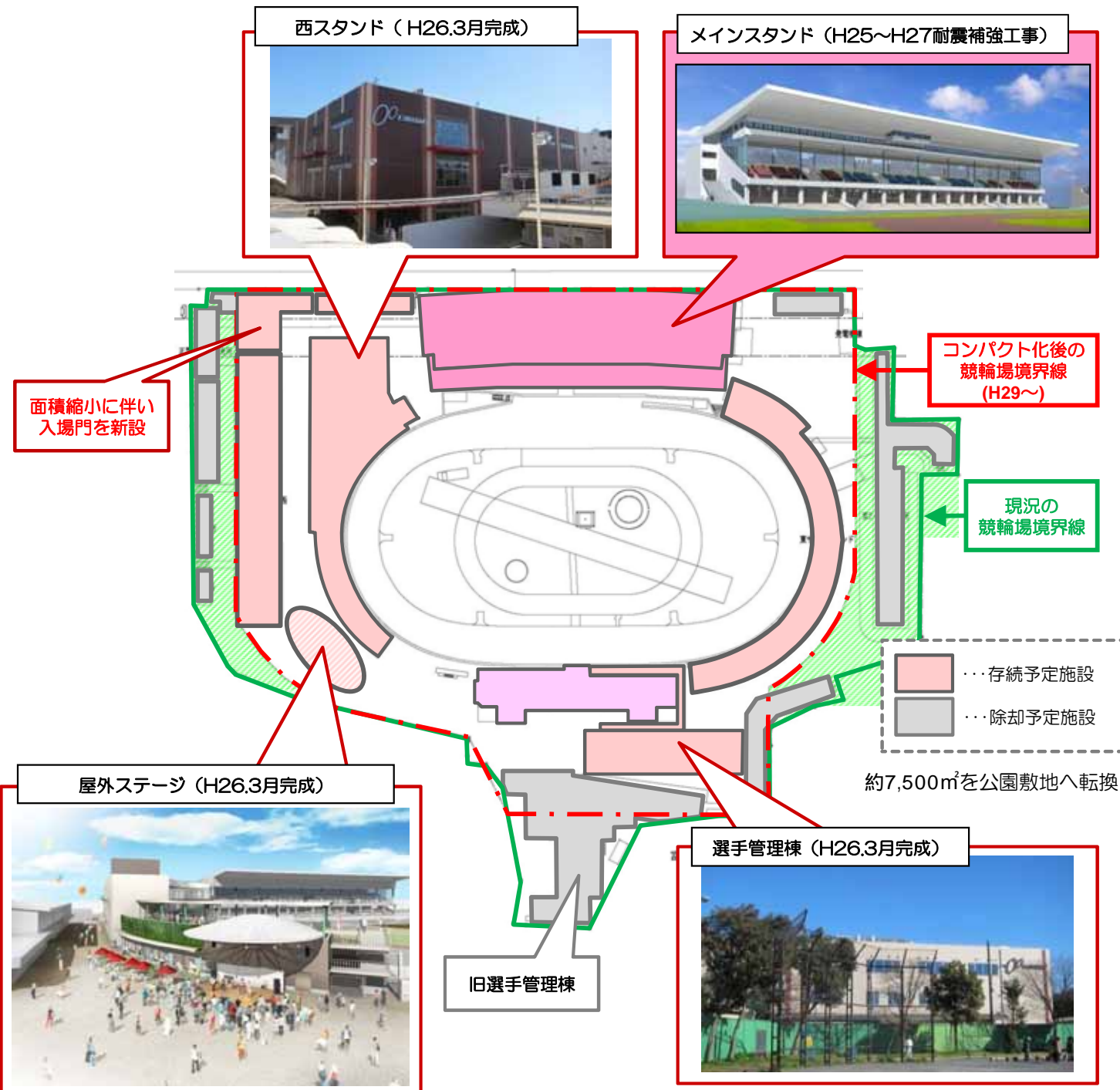
富士見周辺地区整備基本計画(H20.3策定)
 競輪場整備の方向
 「公園との調和に配慮した上で、既存バンクを活用し現位置でコンパクト化するとともに、できる限り多目的な活用をめざします。」

富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(H22.3策定)
 競輪場整備の方向
 「事業費・持続的な事業運営・財源確保等を総合的に判断し、競輪施設等整備事業基金を財源として、既存バンクを活用しながら、第1段階のコンパクト化と将来のコンパクト化という段階的な整備を進めていきます。」



川崎競輪場再整備基本計画(H22.9策定)
 「公園との一体感を感じられる空間づくり」、「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」をメインコンセプトとして第1段階のコンパクト化を行い「富士見周辺地区のまちづくり」に貢献

2 競輪場再整備の進捗状況 数字は年度



3 メインスタンド耐震化

- 1 メインスタンドの現況**
 - 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造6階建の建築物。
 - 審判室・テレビ室・電算機室(コンピュータ室)などの競輪運営用諸室と投票所・特別観覧席など来場者向け設備で構成
 - 平成23年の東日本大震災による被害なし
- 2 耐震補強工事の概要**

契約金額約12.5億円

 - 平成27年度までに耐震強度を学校校舎と同程度に向上(構造耐震指標I_s値が0.7以上)
 - 耐震ブレース設置や耐震壁の新設・補強は従業員用エリアを中心とし、お客様エリアへの影響を極力回避
 - 屋内階段(1~6階直通)を1基新設(災害時避難機能向上のため)
- 3 耐震補強工事設計の変更**
 - 設計時に想定できなかった追加工事が発生(隠蔽部工事等)
 - ・配線・配管類の切回しや撤去物の増加
 - ・一部耐震工法(構造スリット)の変更
 - ・隠ぺい部のアスベスト撤去の変更 等
 - 契約金額の変更 約15.5億円(約3億1百万円の増)**



4 事業実施スケジュール

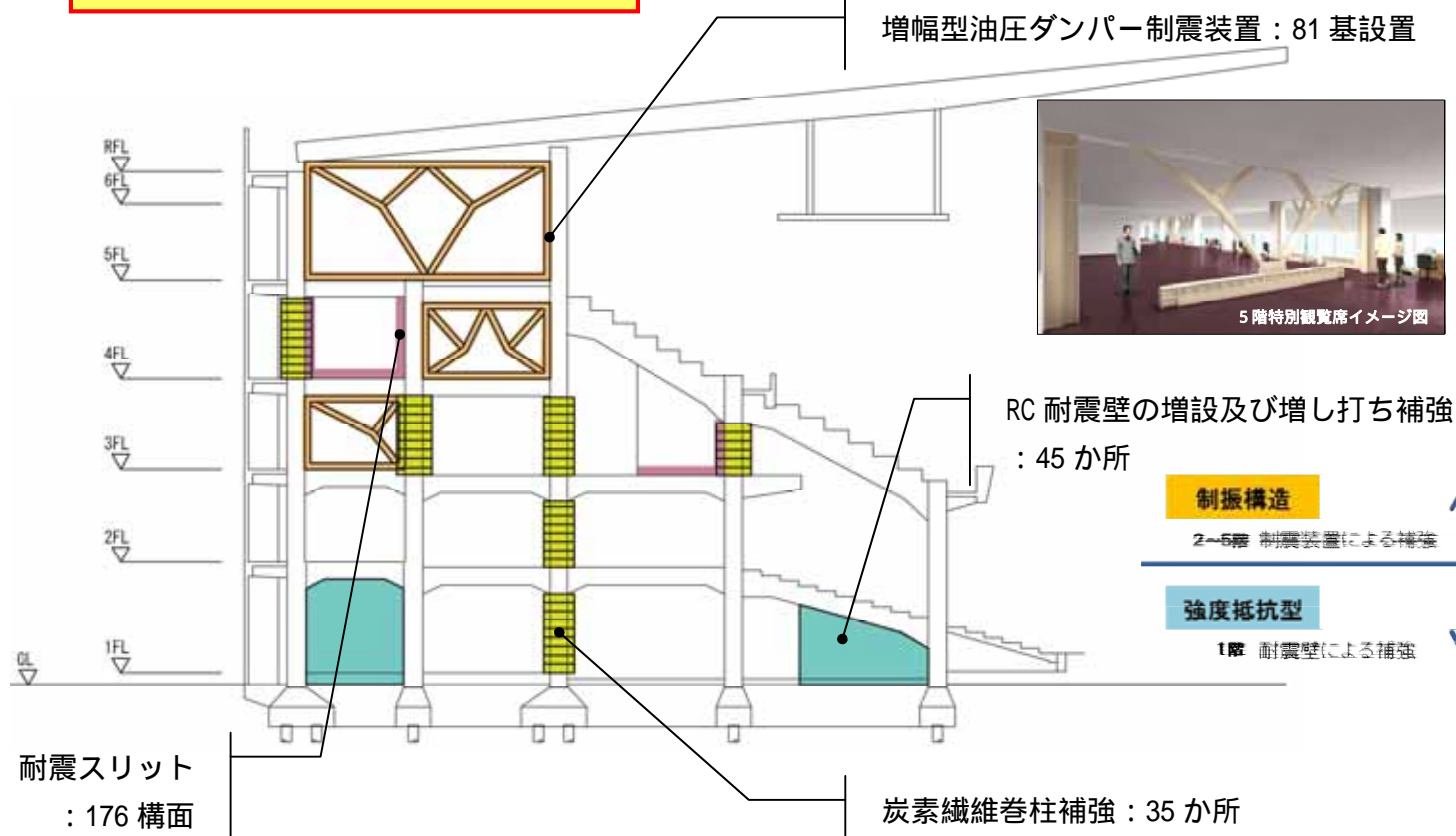
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
西スタンド・選手管理棟整備	準備工事				
	業者選定等	建設工事	利用提供		
メインスタンド耐震補強	実施設計	業者選定等	耐震補強工事	内装改修工事(特別観覧席・開催運営諸室等)	
			内装改修工事設計	特別観覧席等利用提供	
外構整備・既存施設除却		基本設計		実施設計	外構整備工事
				既存選手管理棟除却工事	既存外構除却工事
既存施設耐震補強	耐震調査	工事設計	耐震補強工事		

工事概要及び事業スケジュール

工事名	川崎競輪場メインスタンド耐震補強その他工事	工事場所	川崎市川崎区富士見2丁目1番6号
請負者	吉忠・大場・邦松共同企業体	工期	平成26年3月28日～平成28年2月29日
構造・規模	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上6階建て	建築面積	3,850.00㎡
延べ面積	12,847.36㎡	建築物の高さ	24.50m
当初契約金額	1,171,800,000円		
現在契約金額	1,251,776,160円 (増79,976,160円)		
変更契約金額	1,553,383,440円 (増301,607,280円)		
事業スケジュール	本工事は平成28年2月末までに完了予定		



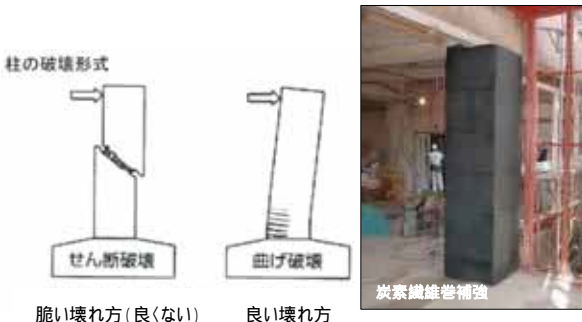
主な耐震補強について



<柱・梁の変形能力を確保するための耐震スリットについて>



<柱の粘り強さを向上させるための炭素繊維巻柱補強について>



変更の内容について

【増額 約3億1百万円の内訳】

1 設計変更分の内訳

約2億8千7百万円

(1) 配線・配管類の切回し等の増加

約2千9百万円 (電気設備)
約2千7百万円 (機械設備)

天井内埋設配線・配管調査時



(設計時) 目視可能な限りの調査を行ったが、部分的な調査では、配線・配管類が使われているかどうかの判別は困難

天井内埋設配線・配管撤去時

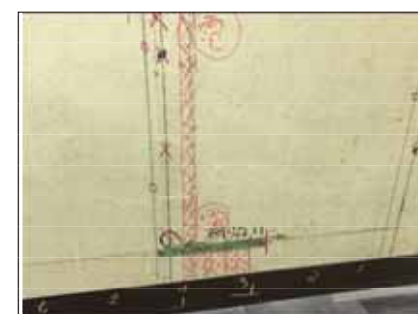


(工事中) 建築物が古く改修を重ねていることから、竣工当時から配線・配管類が煩雑に残る

(2) 一部耐震工法(構造スリット等)の変更

約1億2千8百万円

耐震スリット施工前調査時



埋設配管を避けてスリットを施工するために、内装材や家具類を撤去したうえで、実施したレントゲン探査費用が増加

耐震スリット施工時



電子機器への影響を考慮し、より水の使用量が少ない新しい認定工法(AWAT工法)に変更

(3) 隠ぺい部のアスベスト撤去の工法及び範囲の変更等

約3千4百万円

アスベスト撤去前



既存図面がない天井裏の吹きこぼれや、配線・配管類に影響を与えないよう配慮したため、工区・養生範囲が拡大し、足場や養生材等が増加

アスベスト撤去後



(4) その他

約4千8百万円 (共通費)
約2千1百万円 (消費税)

2 平成27年2月のインフレスライド分

約1千4百万円 (消費税込み)